L.L.News 3

ちよだで多世代交流Ciao! @かがやきプラザ

「チャオ!」は子どもから大人まで使える気軽なあいさつの言葉。そんな気軽で身近な多世代交流をめざして、毎月、子ども、学生、子育て世代から高齢者までが時間と空間を共有し交流する場を開催しています。

好評で定期的に開催されているのは、俳句、哲学カフェ、ボッチャなど。
毎回、ボランティアの皆さんも一緒に盛り上げています。担当の川野さんによれば、「参加者のみなさんが、安心してわくわくでき、人との交流を楽しめる雰囲気づくりを心掛けています」とのこと。5/20〔土〕ひだまりホールで実施された人気の音楽ワークショップ「おんがくとあそぼう」にお邪魔してきました。東京文化会館ワークショップリーダーの明るく元気なリードで、エッグシェイカーを使ったリズム遊びや琴の演奏を中心に、鈴や太鼓や拍子木を和のリズムで奏でました。最後はカラフルなスカーフを振って軽やかなステップを踏みながらサンバを踊りました。終始笑顔と歓声であふれていて、楽しい時間でした。近隣の大学や大使館、企業などと幅広く連携してこれからも素敵な出会いの場を創出してくれることでしょう。
7月以降も、アート、ダンス、納涼会、食育みそセミナーなどのプログラムを予定しています。ぜひ、皆様もチャオ!を合言葉にお気軽に参加されてはいかがでしょうか。

ちょっと探訪⑦ Chiyotto Tanbou　近江屋洋菓子店（おうみやようがしてん）

『ちよっと探訪』では、知る人ぞ知るちよだの魅力に迫ります。

古き良き雰囲気の喫茶コーナー

ひときわ目立つワテラスのタワーマンションのほど近くに近江屋洋菓子店はある。鮮やかなブルーの天井が高く広々とした店内は、レトロな雰囲気が漂い、白いエプロン姿のスタッフは、清潔感があり、いつ訪れても丁寧で親切な接客をしてくれる。明治17年（1884）創業なので、老舗揃いの千代田区にあっても、古株といえよう。コンセプトは「リーズナブルだけれど、チープでない品物を目指して」。地元の方々はもちろん、遠方からも古くからのファンが訪れる。親子3代も珍しくない。知人の女性もその一人で、帰宅したお父様の手に欧風のお洒落なイラストの包み紙を見つけると、途端にお行儀のよい女の子に変身したそうだ。
ケーキというより洋菓子と呼ぶにふさわしい品が大きなショーケースに上品に並んでいる。大好きなお菓子の種類をあげれば、きりがないのだけれど、中でも国産のつがるやフジをふんだんに使ったアップルパイをおすすめしたい。リンゴ本来の甘さがいっぱいに広がり、贅沢な時間に誘ってくれる。お誕生日や記念日に欠かせないショートケーキも、昔ながらのスタイルでどこか懐かしい。スライスされていない丸ごとの苺がサンドされているのも嬉しい。その他にも、毎朝仕入れる四季折々の果物を使った季節感あふれるタルトなど、彩りも美しく目でも楽しませてくれる。今の時期は、ぜひアイスクリームをご賞味いただきたい。素朴な味わいにまるで昭和にタイムスリップしたかのような感覚になるだろう。

こだわりのアップルパイ

Xmasの黄桃サンドも人気です!

INFO　近江屋洋菓子店　〒101-0063 千代田区神田淡路町2-4　☎03-3251-1088　https://www.ohmiyayougashiten.co.jp/

〈編集後記／堺〉 DanDanは今号よりテーマカラーをブルーに一新して、紙面デザインもリニューアルしました。これまでの「生涯学習情報を皆さまにお届けしながら、私たち編集部もともに学び、挑戦していく」という姿勢は変わりませんが、実感のこもった、“中の人”らしい等身大の記事を増やしていけたらと思います。あなたにとってのウェルビーイング、そしてその実現につながる活動・モノ・コトは何でしょうか？ ぜひアンケートから教えていただけると嬉しいです。

DanDan読者アンケート

皆さまのご意見・ご感想をぜひお聞かせください。アンケートフォームよりご回答いただき、九段生涯学習館1階受付でメール画面をご提示いただいた方には当館オリジナルグッズをプレゼントいたします。
※先着順／なくなり次第配布終了となります

DanDan第32号　2023年7月20日発行　発行：千代田区立九段生涯学習館 ©株式会社小学館集英社プロダクション
編集：DanDan編集室　〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-10　TEL.03-3234-2841　FAX.03-3262-7460　https://www.kudan-ll.info/

九段から発信する生涯学習コミュニティペーパー だんだん

DanDan Vol.32

DANDAN2023 TAKE FREE LIFELONG LEARNING

特集 わたしたちのウェルビーイングとは？

今年度のDanDanのテーマは「わたしたちのウェルビーイングとは？」。ウェルビーイング（Well-being）という言葉を耳にしたことはありますか。おおよその意味は「精神的、身体的、また社会的にも満たされた状態にあること」。心身の健康や幸福、自己実現を表すこの言葉は、学びを続ける「生涯学習」にも欠かせないように思います。ただし、それぞれのウェルビーイングにつながる活動は、きっと人それぞれでもあります。

▼三省堂・神保町本店（小川町仮店舗）

今回の特集は「三省堂 神保町本店」。昨年『一旦、しおりを挟みます』のコピーが掲げられ、建て替え工事のため一時閉店した老舗の書店は、小川町の仮店舗で営業を再開した現在も多種多様なフェアで本への興味を誘います。
また同じく本を扱う千代田区の図書館職員にもインタビュー。膨大な知恵や人生、学びが収められた1冊の本。限りなく拡がる読書体験の世界を覗きます。

今号より紙面デザインをリニューアルしたDanDanは、編集室の等身大の視点でより幅広く、より深く、千代田区内の生涯学習情報を皆さまに伝えていきます。

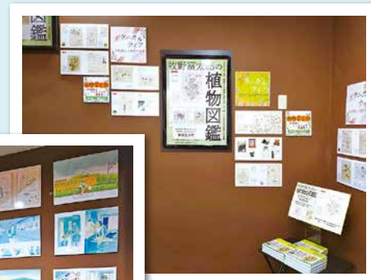
千代田区立 九段生涯学習館 こころを育み 明日へつなぐ

● 特集｜わたしたちのウェルビーイングとは？（三省堂 神保町本店／区立千代田図書館）
● L.L.News｜九段フェス2023 アフターレポート／初代国立劇場を知る～5月文楽公演『菅原伝授手習鑑』～／ちよだで多世代交流Ciao!　● ちよっと探訪｜近江屋洋菓子店

わたしたちの ウェルビーイングとは?

小川町仮店舗への移転後まもなく始まった「短歌を贈る」フェアでは、ガチャガチャを回すとカプセルに短歌が1首入っている書店員手作りの「短歌ガチャ」を詩歌の特設棚の隣に設置。SNSの大きな反響を呼びました。
今年も「あったか～い」「噛むほどおいしい」など本の読み味で選ぶ「本の自販機」を設置するなど、本との思いがけない出会いをさまざまな仕掛けを通して後押ししてくれます。
4月時点でのSNSのハッシュタグは読書家であり作家・読書猿氏の選書フェアに合わせて「#本は運命よりも強し」。1冊の本が持つ言葉や文章への力強い信頼を感じます。
リアル書店ならではの本との出会いを「読書体験」のひとつとして企画する三省堂書店ですが、140年余りの長い歴史の中で培ってきた地域の人々とのつながりも深く、移転前からのお客さまの好みに合わせた本の品揃えも心がけています。新しい試みを楽しみに、いつも通りの書店を味わいに、神保町から少し足を延ばして訪れてみませんか。

▼牧野富太郎の関連書籍の紹介



▲新刊に合わせた原画展示

Staff Voice
神保町本店
主任・大西さん

1881年から神田の場所で愛されてきた老舗書店です。改築が終わるまでご不便もおかけしますが、ここ小川町でもさまざまな方と出会い、つながっていけたら嬉しいです。幅広い世代の方に、お問い合わせはもちろん暇つぶしでも、気軽に立ち寄っていただける身近な書店であり続けたいと思います。

オープン1周年記念 10大イベントのひとつ

「本は持ち歩き可能な魔法です。」

三省堂 神保町本店（小川町仮店舗）
〒101-0052 千代田区神田小川町2-5
☎03-3233-3312（10:00-20:00）

区立千代田図書館サービスプロデューサー 坪内一さんに聞く

Q. 坪内さんにとって、読書の魅力とはなんでしょうか?
本を通じて人を知ることですね。以前なら「本は一人静かに読むもの」「著者との心の対話」というような読書観を持つ人が多かったですが、大きく変わりつつあります。各地で本を仲介して人と人のつながりを拡げる取組みがみられるようになりました。たとえば全国に1,000か所以上ある「まちライブラリー」は、街中の気軽な寄り合い所としても機能しています（千代田区では、神保町の「ブックハウスカフェ」が登録されています）。一人で読む「孤読（こどく）」もいいけれど、みんなで読む「共読（きょうどく）」の楽しさも知ってもらいたいと考え、8年ほど前から、私も「共読」のワークショップや読書会を行っています。参加者が推薦したい本を持ち寄って紹介する持ち込み方式で、個性が際立ち面白いですよ。

Q. 図書館にお勤めの立場で、日頃お考えになっていることはありますか?
図書館は、著者・出版社・取次・書店といった様々な業種に支えられて成り立つものなので、安定的な出版文化産業の維持のために図書館がもっと汗をかくべき、と考えています。千代田図書館は地元の書店・古書店との連携をとても大切にしていますが、こうした「共汗（きょうかん）」の姿勢で、これからも地域の学びと交流と文化の拠点となるべく、努力していきたいと思っています。

L.L.News 1

九段フェス2023-smile- アフターレポート @九段生涯学習館 3.15〔水〕→19〔日〕

ギャラリー展示

2022年度に九段生涯学習館で取り組んだ事業をパネルでご紹介。また当館を利用するサークルの活動紹介動画、当館にかかわる皆さまで踊るダンスリレー動画を上映しました。

ミニ講座

水墨画、お金、防災、消しゴムはんこ、万年筆の修理など、多彩なラインナップで開催しました。筆者はお金の講座に参加、講義形式と個別相談形式で個人の資産や環境に適した行動プランを提案していただきました。

ミニイベント

薪割り体験と紙芝居の上演会を開催しました。薪割り体験では特殊な薪割り機を使用、子どもでも薪割りを体験できました。薪を割る音が響き、通行人の注目を引いたようで、多くの方にお立ち寄りいただいたことが印象的でした。

舞台発表

当館で活動中のサークルが日ごろの練習の成果を発表。合唱やバンドのほか、太極拳や居合などバリエーションに富んだプログラムで、発表者のご友人のほか、通しで鑑賞する方など多くの観客を動員し、盛り上がりを見せました。

九段生涯学習館のYouTubeチャンネルでは、当日会場に来られなかった方や、もう一度見たい方のために、ダイジェスト版をアップしています。4年振りに対面での発表が帰ってきた九段フェスの盛り上がりをぜひご覧ください。九段フェス2024もどうぞお楽しみに!

L.L.News 2

初代国立劇場を知る～5月文楽公演『菅原伝授手習鑑（すがわらでんじゅてならいかがみ）』～

2023年11月に閉場・建て替えを控えた国立劇場。「初代国立劇場さよなら公演」と千代田区生涯学習教養講座が連携し、歴史ある劇場と文楽公演の魅力をお伝えしました。

レクチャー：文楽 @九段生涯学習館 5.17〔土〕

『菅原伝授手習鑑』は菅原道真が太宰府へ左遷された事件を中心に描かれる五段続きの演目。初段から始まった騒動が進展していく二段目を鑑賞するにあたって、文楽初心者でも楽しめるように物語の流れと見どころを学びました。愛情や怨恨が交錯するなかの人形の細やかな動き、気合が込められた太夫の語り、終盤では涙をも表す三味線の音、どれも文楽の魅力です。

レクチャー：初代国立劇場 @国立劇場 伝統芸能情報館 5.20〔土〕

鑑賞当日。まずは（独）日本芸術文化振興会が運営する全国の劇場の解説映像を鑑賞。沖縄にも「おきなわ国立劇場」があります。そして国立劇場設立の経緯解説では当時の米軍住宅の様子やコンペ案などの貴重な資料も。「宝（歌舞伎などの芸能）を保存する宝物庫」をイメージした国立劇場は、奈良の東大寺正倉院の宝物殿を模した校倉（あぜくら）造りが大きな特徴です。

『菅原伝授手習鑑』鑑賞 @国立劇場 小劇場 5.20〔土〕

レクチャーを経ての鑑賞は物語の解像度が上がり、また劇場で味わう文楽は音の迫力や緊張感が格別です。8・9月には『菅原伝授手習鑑』三段目～五段目の上演も予定されていますので、皆さまも初代国立劇場・文楽最終公演をぜひ見届けてください。